

八軒つうしん



巻頭言

再任の挨拶

会長 菅井 茂



この度、再度会長を仰せつかりましたので、改めてご挨拶申し上げます。

これまでの四年間は、執行部並びに事務局皆さんのご支援ご協力をいただき、無事責任を果たせたのではないかと思います。ありがとうございます。また総会に代わる代表幹事会では、いろいろとご審議していただき、同窓会として何をなすべきかの示唆をいただきました。お蔭で一応の機能を果たしてきたのではないかと思っています。しかしながら、任期四年という期間は長く、マンネリ化する危険性もありますので、任期を二年間に変更させてい

いただきました。これからの二年間皆様のお世話をさせていただきますます新執行部は、次のとおりですので、よろしくお願い致します。

会長 菅井 茂

副会長 佐藤 徳子

監事 菅原 敏之

八谷 和子

今野 喜郎

事務局長 安達 和則

企画次長 村井 雅彦

庶務次長 福島 一恵

広報次長 永田 淳子

会計次長 遠藤 恭郎

八軒中代表 坂田 三郎

渡邊 貴之

なお、事務局員として今後十数名の方をお願いする予定です。

ところで、平成二十三年は東日本大震災のため日本中が悲しい思いをした年でした。私たちの仲間も犠牲になりましたし、被災された方々も多くおられます。ここに改めてお悔みとお見舞いを申し上げます。

あの非常時に、わが母校八

軒中学校は大きな働きをしました。大震災が起こった日には近隣の人々の避難所となり、その翌日からは、荒浜地区で巨大津波に襲われ、荒浜小学校から救助されて助かった人々と中野小学校で救助された人々の避難所となりました。それから約一カ月間、八軒中学校の校長先生はじめ先生方や中学生達が献身的に避難者の世話をしました。また吹奏楽・合唱部の生徒達が、避難者に歌を歌っている様子がNHKニュースで取り上げられ、全国に放送されました。

平成二十三年九月二十五日、ホテルレオパレス仙台駅東口・イベントホールにおいて、八軒中同窓会総会が開催されました。

なつかしい先生方も出席されて

来賓として、母校である八軒中学校から、菅原敏彦校長先生、山脇豊勝教頭先生、同窓会担当の坂田三郎先生、渡邊貴之先生が出席されたほか、かつて在職された菅原昭二先生、佐々木八郎先生、曳地清先生、笠原武文先生にいただきました。



第一部の様子

総会は二年に一度に

第一部は、直野まり事務局員の司会により、冒頭に東日本大震災で犠牲になられた同窓生に対し、黙祷を捧げました。

菅井茂会長、山脇教頭先生のご挨拶(菅原校長先生は校務で遅れて参加)、恩師のご紹介の後、議事に入り、報告事項として、菅原敏之事務局長から経過報告、遠藤恭郎会計次長から会計報告、八谷和子監査から監査報告、本郷誠副会長から「生徒の生活環境を考える」委員会報告、佐藤徳子副会長から「私の八軒時代」編纂委員会報告、永田広報次長から「八軒つうしん」発行報告がありました。



挨拶される山脇教頭先生

協議事項として、菅原事務局長から規約改正、活動計画、遠藤会計次長から会計予算について提案がなされ、いずれも多数の拍手により承認されました。

規約改正により、総会はこれまでの四年に一度から二年に一度となり、役員任期も四年から二年に短縮されました。その後、村井雅彦企画次長から、次期役員について選考委員会での検討結果が報告され、これを受けて菅井会長を始めとした新しい役員が選出されました。

最後に、同窓会財政強化のため、個人及び団体(同期会等)に協力金の呼びかけを行うことについて、菅原事務局長から提案があり、了承されました。

琵琶の音色と 八軒中生の歌声

続く第二部は、アトラクション。まず、「伊達政宗公をしのぶ夕べ」と題して、中田朝水さんによる薩摩琵琶の演奏が行われました。次に全国的な反響を呼んだ八軒中吹奏楽・合唱部によ

る「あすという日が」の歌声と映像を収録したDVDを鑑賞しました。



演奏者の中田さん(右)を紹介する
第10回生の伊藤文明さん

お待ちかねの懇親会は、第三部。当学年を中心に同期生だけで埋まったテーブルが多く、スタートから盛り上がりました。昭和の卒業生がほとんどを占める中、平成の卒業生である二十代と三十代の若者の参加がありました。彼らが、臆することなく各テーブルを回り、先輩達と交流を深める姿に、頼もしさを感じました。

最後は、校歌斉唱と恒例の遠藤会計次長のリードによるエールで締めました。
第十一、十二、十三、十四、十八、十九回生は、引き続き二次会で盛り上がりました。

参加者の声

平成二十三年九月、同窓会総会・懇親会に出席させていただきました。総会は厳かな中、滞りなく行われ、総会終了後の吹奏楽・合唱部による演奏「あすという日が」のDVD鑑賞では、私自身、現役時代に吹奏楽部に在籍していたということもあり、当時は懐かしみながら聴くことができました。その後の懇親会では、多くの先輩方に当時のお話を伺ったり、同級生のお母さんに再会したりと本当に温かく迎えていただきました。

今回の同窓会、同世代が一人も参加しておらず、二十代は一人の参加でした。私たち一人一人が校訓である「美しく」「たくましく」「つつましく」の精神を胸に刻み、同窓会員の一人だという自覚を持ち、先輩方が築いてきた伝統や歴史を、しっかりと後輩にバトンタッチしていかねければならないと思います。
第五十二回生(平成十一年卒)

猪又 隆広

「生徒の生活環境を
考える」委員会

前 副会長・委員長
本郷 誠



生徒の生活環境をよりよくしていくため、PTA・学校との「かわり」をより濃密にし、

一緒に考えながら学校を支援、バックアップし、「安全・安心な生徒の生活環境(交通・防犯等)づくり」のため、専門的知識を持って同窓生の力を借りながら、学区各地区の問題点、解決策について考える会です。

活動方針

- ① PTAとともに生徒の部活動指導者、施設面の問題を考える。
- ② PTA・警察と一緒に安心して安全なまちや防犯上の問題を考える。
- ③ 通学問題対策を行っている

PTA・交通安全協会等に協力する。

平成二十年十二月の第二回代表幹事会で設置が承認されたことを受けて、平成二十一年度は、若林区まちづくり推進課主催の「駅勢圏活性化ワークショップ」に参加し、地下鉄愛宕橋駅と河原町を中心とする三角地帯の活性化を目的に、地元住民や勤務している人達との意見交換やイベントを実施しました。

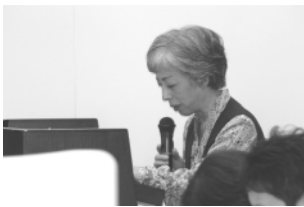
平成二十二年度は、生徒が主体的に健全育成活動や非行防止活動に参画し、子どもたちの視点から、地域に情報を発信し、よりよい環境づくりを目指して活動する、児童生徒育成健全ボランティア「八軒中アルカス」の活動支援として、第三回清掃大作戦(JR物資部公園)に参加しました。
地元の同窓生の参加を募り、委員会活動を活性化させていきたいと思しますので、よろしくお願ひします。

「私の八軒時代」
編集委員会

副会長・委員長
佐藤 徳子

「私の八軒時代」第一集(創刊号)は震災とも重なりましたが、同窓生の皆様のご協力に支えられて、ようやく刊行の運びとなりましたことに改めまして御礼申し上げます。

さて、第二集は平成二十五年の総会にてお披露目すべく、委員会の体制も新たに、副委員長の直野まりさん(第十八回生)を中心に広報部と連携して、会員の皆様に呼びかけて参りますので、奮ってのご投稿をお待ちしております。



今や同窓生は、旧制十二回、新制六十四回の二万六千五百名となり各分野で広くご活躍されております。昭和十三年からの七十六年の歴史は脈々と受け継

がれています。

震災後のまだまだ落ち着かない日々とは思いますが、八軒中で過ごした青年期への多感な三年間を思い出して、その一コマをそつと手に取ってみては如何でしょうか。忘れかけていた記憶をたどり、友や恩師・家族を思い出し、声をかけ、お互いに元氣と勇気を分かち合ひましょう。「絆」は身近なところにあります。

第二集では未曾有の災害である「三・一一東日本大震災」を経験して感じた母校や同期生への思い、地域のつながりなどをお寄せいただけたら幸いです。これから前向きに生きる人生の力にして行きたいと思ひます。

最後に、第一集はまだ在庫があります。一冊二百円以上のお気持をいただいております。個人はもとより、同期会開催に合わせた一括購入も大歓迎です。お申し込みをお待ちしております。

※ お申し込みは、八頁に記載されている原稿提出先までお願いいたします。

同期が集えば

第十四回生 (昭和三十六年卒)



懐石料理に舌鼓

関東在住・第五回「はっけん会」が平成二十三年十二月三日横浜にて、参加者十三名で行われました。山下公園散策と関内老舗割烹の和食を堪能する会でしたが、当日あいにくの悪天候の為、開港記念館を見学し、雨は止みましたが公園散策をほんの一部で切り上げ、美味しい懐石料理を頂きながら、室内にてゆつくりと楽しい時間を過ごしました。中学時代の話でもちきり、大いに笑い、次回の開催場所と幹事も決まり、有志による「三・一一地震と津波」の論文をおみやげに、二次会後、それぞれの帰途に着きました。

(石井 喜代子)

第十五回生 (昭和三十七年卒)

昨年三月十一日の東日本大震災は、未曾有の被害をもたらしました。ここに被害にあわれまされた皆様にお悔やみとお見舞いを衷心より申し上げます。

早いもので、一年が経過しようとしております。

母校の八軒中学校も避難場所となりましたが、菅井会長はじめ八軒中学校区在住の同窓会会員の活躍に対しまして、心から敬意を表しますと共に、後世に語り継がれるべく絆の証となるものと思えます。

さて、十五回生のミニ集会の様子をご報告致します。

第一回目

平成二十年八月二十九日

こちら丸徳漁業部 十三名

第二回目

平成二十二年十一月六日

酒楽 十名

第三回目

平成二十三年九月二十五日

天海ハマ市場 十一名

今までのミニ集会では、予想どおり一気に五十年前にタイムスリップし「くくん」、「くち

やん」の名前が、飛び交う世界に突入と相成りました。参加者の中には、五十年ぶりの再会、また、地域的には北海道でも最北の地より参加と、その都度新鮮なふれ合いです。



女性パワーで圧倒

三回目は、同窓会総会の後でしたが、あの頃の十五回生は、今も変わらず、「若いゴト！若いゴト！」。特に女性陣の若さとパワーで盛り上がり、散会時、またの再会に思いを馳せ、お別れとなりました。(村井 雅彦)

第十七回生 (昭和三十九年卒)

第四回「四ツ葉三九会」開催

平成二十三年十月九日(土)

十六時三十分より

「蕎麦処おおわだ」にて

(同期の仲間のお店、

南警察署南隣)

恩師お三方、同期三十三名出席。

未曾有の大震災の年に、とりあえず集まれる者達で同期会を開催しました。

母は流されました、と娘さんよりメールが届いたり、家屋敷が明らかに流されたにもかかわらず、案内状が返送されず、便りがとりあえず届いているであろう方もいたりしました。また、同窓会総会の幹事当番のお役を無事済ますことが出来、その会の様子の報告などを交えて飲み会が始まりました。



大震災 当日、その後は、その時どうしたか、振り返りの話が各テーブルでなされ、とりあえず無事

(飯坂 隆二)

母校から同窓会へ

「八軒を愛する熱い心」を
感ずる同窓生

仙台市立八軒中学校

校長 菅原 敏彦



東日本大震災後に、本校の武道館で開催した吹奏楽・合唱部による避難者を迎えての「音楽の集い」の報道が多くの人の心を打ち、涙を誘いました。全国の方々にも感動を与え学校には多くのメッセージが届いております。同窓生のみなさんからも多くのメッセージをいただきました。

九月の同窓会総会では「八軒中学校の同窓生として誇りに思っています」「すごい活躍ですね。うれしい限りです」「八軒中学校合唱部に所属していたことを語っています」などという声を、多くの皆さんから聞くこと

ができました。

特に第十一回卒業生の皆さんには、吹奏楽・合唱部の活動に多大なるご支援をいただきました。本当に感謝しております。

最近、学校を訪れる同窓生や連絡をくださる同窓生が増えています。同窓生の皆さまが在学していた当時の様子を聞く機会も増えていきます。そのような中でいつも感じることは「八軒を愛する熱い心」です。「私たちの時代には、音楽堂があつて、吹奏楽や合唱が盛んでした」と語る同窓生。「北校舎は、だいぶ老朽化していて、寒かったな」と語る同窓生など。そのような言葉の端々に感ずるものは、「八軒を愛する熱い心」です。

「美しさ」「たくましさ」「つつましさ」という校訓を十分に理解して、未だに記憶している方も数多くおられます。



生徒昇降口にある校訓碑

今年度は、野球部や剣道部、テニス部、そして陸上部や水泳部も見事な成績を収めました。現在の八軒生も、同窓生の皆さんと同様に「母校八軒を愛する熱い心」を抱きながら、この学舎を巣立っていつてほしいと願っているところです。

同窓会は
若返りの奇跡の場所

教頭 山脇 豊勝

九月二十五日(日)の同窓会総会に出席させていただきました。

参加者の方々にとってこの同窓会ぐらい懐かしく、また楽しみなものはないのだろうかと感じました。実際、同じ学校で、同じ先生から教わり、同じ運動場であばれまわった幼なじみの同窓生の誰かれと会って話している様子は、腕白時代の無邪気なころに戻っているような気がします。

卒業以来、何年も会わずに、それぞれ異なった仕事に進んで

も、それがこの会で顔をあわせると、最初は、「誰だったかな」とちよつと思ひ出し、ひとたび名のりあうと、たちまち「やあ、どうも」となって、肩をたたいたり、中には「なんだ、おまえか」なんて、何十年すぎても、「おい、こいつ、おまえ、おれ」で、昔に返って話し合える、そしていつのまにか幼な顔にもどって時をすくす、同窓会は、たしかに若返りの奇跡の場所なのだと思うのです。そして、エネルギーの泉なのだと。

昨年は、三月十一日、日本は青天霹靂の国難「東日本大震災」に遭遇しました。復旧・復興にはまだまだ苦難が続くでしょうが、日本の力を信じたいと思います。また、同窓会の皆さまには様々な面で学校を支援していただいております。大変ありがとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

同窓会担当です!

『つうしん』

一学年主任 坂田 三郎

部屋の片づけをしていた時、沢山のテレホンカードが出てきた。カードを揃えながら、一枚のカードに目がとまった。それは忘れもしない私が二十歳の時、電話ボックスで拾ったカードでした。目標もなく「みんなが行くから」と情けない考えで大学へ進学した自分に、『夢をもって』と気づかせてくれたカードでした。

当時はある大学に在籍していましたが、将来は身体を使う職業と考へ、『体育教師』か『消防士』になることを目指すことになりました。しかし、体育教師を目指すには別な大学を受け直すしかありません。「大学を中退しても良いのだろうか?これ以上両親に迷惑はかけられないし:」様々なことが頭の中をよぎりました。それでも親に頭を下げ受験の許可をもらえたとき

の『ほっ:』とした気持ちを今でも覚えています。

一枚のテレホンカードが人生の岐路に立たせ、転機をもたらしてくれました。人や本との出会いも不思議なものですが、このカードとの出会いもまた不思議なものでした。

「あなたの夢はなんですか?」と聞かれて、自信をもって答える生徒は多くいません。私もそんな子どもでしたが、子どもと夢を熱く語り合えるそんな教師になりたいと考えていた自分でした。

- 『夢』なき者に 目標なし
- 目標なき者に 計画なし
- 計画なき者に 行動なし
- 行動なき者に 成果なし
- 成果なき者に 幸福なし

※ この詩は有名な吉田松陰がつくった詩のようです。

歴史に学ぶ

三年担任 渡邊 貴之

『私の八軒時代』の第一集が発行されました。その中には、同窓生や恩師の皆様の思い出、そして八軒中学校の歴史が綴られており、伝統の重みを痛感いたしました。仙台市立第十一中学校として開校以来六十四周年をむかえ、卒業生は、二万数千人を超えます。その歴史のページに私がかかわれることを幸せに感じています。

さて、今年度は東日本大震災により、中学校の教育活動も大きく影響を受けました。体育館が使用できないことが大きく、体育の授業や部活動で、思うような活動ができませんでした。

『私の八軒時代』に綴られているエピソードの中に、中学校が火災に遭い、校舎のほとんどが焼失したことがあります。机や椅子の運搬や焼け跡の片付け、板で仕切った講堂での授業など、多くの苦労があったと聞いています。当時、生徒や教師、

地域が一丸となった姿は、正しく今現在の私たちに必要なことであると感じています。震災後、同窓会の菅井会長様を中心に迅速な避難所運営がなされました。そのときほど、地域の力を感じたことはありません。

私は八年前、教師のスタートである教育実習をこの八軒中学校で行いました。そして、八軒中学校に赴任して三年が経ちます。同窓会の担当になったこと、これもまた運命に感じています。今後も、生徒たちが健全な成長ができるように、同窓生の皆様をはじめ、地域の方々のご支援ご協力をお願いいたします。



「わかば学級制作」

在校生の活躍ぶり

《運動部》

第六十回仙台市中学校総合体育大会

大会

① 陸上

男子 走高跳 一位
女子 一年千五百M 二位
二百M 三位

② 水泳

男子 四百M個人メドレー 五位、六位
二百M背泳ぎ 八位
二百M背泳ぎ 五位
四百M自由形 三位
千五百M自由形 三位、八位
二百Mバタフライ 六位
四百Mリレー 八位
四百Mメドレーリレー 三位

女子

百M平泳ぎ 七位
二百M平泳ぎ 七位
四百Mリレー 五位
四百Mメドレーリレー 八位

③ ソフトテニス

男子 団体 一位
個人 一位、三位、五位
女子 個人 五位

吹奏楽コンクール

第五十四回宮城県大会 金賞
第五十四回東北大会 金賞
第五十九回全日本吹奏楽コンクール 銅賞

《文化部》

① 陸上 男子 走高跳 八位

吹奏楽コンクール

第五十四回宮城県大会 金賞
第五十四回東北大会 金賞
第五十九回全日本吹奏楽コンクール 銅賞

④ サッカー 男子 三位

⑤ バレーボール 女子 三位

⑥ 柔道 男子七十三kg級 三位

⑦ 剣道 男子 個人 一位

⑧ 野球 一位

第六十回宮城県中学校総合体育大会

① 陸上

男子 走高跳 二位
女子 一年千五百M 一位
二百M 四位

② 水泳 男子

千五百M自由形 四位
四百Mリレー 八位
四百Mメドレーリレー 四位

③ 剣道 男子 個人 五位

第三十二回東北中学校総合体育大会

① 陸上 男子 走高跳 八位

《文化部》

① 吹奏楽
・全日本吹奏楽コンクール
第五十四回宮城県大会予選
仙台太白・宮城野・若林地区大会 金賞
第五十四回宮城県大会 金賞
第五十四回東北大会 金賞
第五十九回全日本吹奏楽コンクール 銅賞

② 合唱
・第七十八回NHK全国学校音楽コンクール 金賞
宮城県コンクール 金賞
東北ブロックコンクール 銀賞

③ その他
・第二十八回宮城県中学校校内放送コンテスト大会 金賞
朗読部門

・第四十五回アンサンブルコンテスト

若林地区大会

ホルン五重奏 銀賞

バリ・チューバ五重奏 銀賞

サクソフォン三重奏 金賞

木管三重奏 金賞

宮城県大会

サクソフォン三重奏 金賞
木管三重奏 金賞

② 合唱
・第七十八回NHK全国学校音楽コンクール 金賞
宮城県コンクール 金賞
東北ブロックコンクール 銀賞

・第六十三回全日本合唱コンクール 金賞
宮城県大会 金賞
東北大会 金賞

・第六十四回全日本合唱コンクール 銀賞
TBC子ども音楽コンクール 金賞
宮城地区大会 金賞
東北大会 優秀賞

・第二十八回宮城県中学校校内放送コンテスト大会 金賞
朗読部門

アナウンス部門 銀賞、銅賞

仙台市中学校弁論大会

仙台市中学校英語暗唱・弁論大会 優良賞

弁論の部 優秀賞

暗唱の部 優秀賞

仙台市地図作品展 銀賞
高度分布 銀賞
土地利用 金賞、銀賞、銅賞
・第七十九回全国書画展覧会 特選、銀賞

新しい仲間

*その他入賞・入選実績多数。

平成二十二年度(第六十四回)仙台市立八軒中同窓会入会式は、平成二十三年三月十一日、奇しくも東日本大震災発生直前に行われ、男子九十九名、女子八十二名の計百八十一名が新たに入会しました。
先輩の講話として、第十三回生の小幡秀雄さん(元・仙台三越店次長)がお話ししてくださいました。

吹奏楽・合唱部を 同窓生が支援

昨年十月、第十一回生が「被災者支援を行っている母校の活動を支援したい」と、同期生約九十人から集まった募金二十五万円を八軒中吹奏楽・合唱部へ贈呈しました。十月に行った同期会の際に集まった募金と同期会の残金、そして「関東同期会」が呼びかけて別途寄せられた募金の総額です。十一回生を代表して、幹事長の鈴木武さんと同窓会アドバイザーの佐々木トキ子さんから、菅原校長先生に手渡しました。菅井同窓会会長も同席しました。



左から菅井会長、佐々木さん、鈴木さん、菅原校長先生

イタリア、ミラノ在住の音楽家（藤原歌劇団所属）牛坂洋美さん（第三十回生）も昨年十月に里帰り帰国した際、サロンコンサートの一부를震災

復興で頑張っている母校の吹奏楽・合唱部へ寄付しました。佐藤副会長が同席し、生徒代表に手渡しました。



左から佐藤副会長、牛坂さん、生徒代表のお二人

「私の八軒時代」第二集 原稿募集中!

佐藤編纂委員長の報告にもありますように、平成二十五年の総会に向けて、「私の八軒時代」第二集を編纂いたします。

左記のとおり原稿を募集いたしますので、奮ってご投稿ください。

一・内容 八軒中在学時の思い出（現役の八軒中生に伝えたこと）

二・字数 本文 千字程度（タイトルを付けてください。執筆者のお名前（旧姓も）、卒業回又は卒業年をお忘れなく）

三・締切 平成二十四年九月末まで随時受け付けます。

四・提出先等

① 手書きの場合（郵送）

〒九八四―〇八一四 仙台市若林区南染師町二〇―一〇五

直野 まり あて

※郵送料はご負担ください。

② テキスト又はワード（電子ファイル）若しくはメール

ルベタ打ちの場合（メール）
naonomari@h9.dion.ne.jp

③ 写真がありましたら、お貸しください。可能な限り

電子ファイル化してご提供ください。

④ お問い合わせは、直野まで。

〇九〇―九三八六―一七四六

各回生の動きを お知らせください

同窓会では各回生との連絡を密にしていきたいと考えておりますが、窓口となる方がわからなくなっている期もあります。幹事の自薦他薦、情報提供でも結構ですので、よろしくお願ひいたします。

また、「八軒つうしん」の中で、同級会や同期会の様子をお伝えしていきたいと思っております。こちらも情報提供をお待ちしております。ご投稿いただける場合は、「私の八軒時代」と同じ提出先をお願いいたします。字数は、本文四〇〇字程度となります。

編集後記

毎度のことながら、綱渡りの編集作業でした。次号こそは余裕を持って……？

※掲載に当たって、執筆者の敬称は略させていただきます。ご了承ください。

八軒つうしん第七号

発行日

平成二十四（二〇一二）年

二月二十五日発行

発行者 八軒中同窓会事務局

〒九八四―〇八二七

仙台市若林区南小泉八軒

小路九―一

仙台市立八軒中学校気付